

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100277		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハート六条(1番館)		
所在地	岐阜県岐阜市六条江東3丁目1番26号		
自己評価作成日	平成29年1月27日	評価結果市町村受理日	平成29年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&lgvovsOid=2190100277-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成29年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温もりのある環境づくり、家庭的な居心地の良さを感じて頂ける様に努めております。利用者は家に帰省したくないと思うまでになり、手作り料理は勿論、畑で収穫した野菜を料理したり、ティータイムには外で日ざしを浴びてのんびりくつろいだり、又、手作りのボーリングや輪投げ大会等で体を動かすなど、重度化し車椅子利用者が多い中、色々と工夫に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問時、食事準備中のリビングに伺ったところ、利用者の皆さんに自己紹介をしていただいた。上手く伝えられない方に、他の利用者が小声で、サポートしたり、自己紹介が終わると、皆で拍手をされていた。その後、食事の準備中に竹筒に入った箸を利用者が配られていたが、自分で上手く取れない方に対し、他の利用者がその人の箸を整えていた。食事が始まると、上手くスプーンが使えない利用者に対し、隣の方が優しく手伝う等、利用者同士の関係がとても和やかに感じられた。また、食事は低価格にもかかわらず、家庭的で、なおかつ豪華な内容であった。材料の仕入れを安売り店を探して購入したり、地域、家族、職員による差し入れを活用しているとのことである。利用者が「いつもおいしいよ。食事が楽しみや。」と嬉しそうに話されていた。前述のように利用者や職員の様子、両者の関係性からアットホームな雰囲気が感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人に感謝、日々に感謝、地域に感謝」を理念に掲げ、管理者や職員は介護の仕事をして頂いている喜び、感謝をとて感じている。	病院では食事摂取が困難であった方が当ホームに入居し、介護職員による支援で食欲が出たとの事例があり、医師からお褒めの言葉をいただいたとのことである。利用者に、家族に、関係する方々に感謝し、自分たちの仕事に喜びを感じたとのことである。理念にある「人に感謝、日々に感謝、地域に感謝」を忘れないよう日々ケアに心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お散歩の際に近所の方と挨拶を交わしたり、近くの喫茶店等は顔なじみの関係になっている。又、近所の方やデイサービスの方を招いての会を催したり、生き生きサロンへの参加や町内の清掃活動や行事等参加させて頂いている。	自治会に加入しており、地域で行われる各種の行事等について把握している。また、近隣の会社の託児所の周りを散策する際には、挨拶を交わしている。地域の行事等への積極的な参加や地域の会社を利用する等して地域のつながりを深めるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年の行事の一貫として近隣の高校との夏の行事「流しそうめん・ゲーム大会」を催している。又、中学校のボランティアの依頼があったが、交流を一度とならず次にも繋げることができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね二ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。自治会役員、民生委員等の代表者や地域包括支援センター、市担当者とサービス向上に向けて情報や意見交換を行っている。	会議では各種イベントの様子やヒヤリハット報告等の現状報告をしている。会議に参加している民生委員の紹介でボランティアに来ていただいたり、地域包括支援センターから入居希望者の情報をいただいたりしている。	工夫された、素晴らしい食事を提供されているので、例えば、会議の参加者にも、食事を食べていただいたり、行事に参加していただく等、ホームの広報や委員の交流を促進すべく、会議の持ち方の検討に向けた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村共に積極的に報告、相談をしている。運営委員会を利用し市役所、包括支援センターに疑問・問題が上がると相談している	日頃から、市担当課や地域包括支援センターにホームの運営等について、報告すると共に、相談し、適切な助言をもらう等協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについてのマニュアルを整備し、外部研修、職場内研修を通して全職員が拘束のない支援の実践に努めている。施設の構造上、やむなく玄関の施錠をしている。また身体拘束の必要性が生じた場合は、市や家族へ知らせ、説明し同意を頂いている。利用者様の状態が重度化になり、やむなく危険を伴う場合に、ベッセンサーマットの使用を家族に相談し使用している。	身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。階段付近にアコーディオン式の扉を設置したり、出入り口付近に車いすを置いたりする等して、各ユニットの出入り口を施錠しないように工夫している。利用者は自由に廊下に出ることができる環境にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の虐待は一切無い。更に今後も今までのように防止に努めていきたい。職員会議で言葉遣い、対応の仕方等を話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用される利用者様はいませんが、今後は活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書と口頭にて十分説明をし、トラブルの無いように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にポスターや苦情受付ポストを設置し、利用者や家族が意見、不満、苦情を言える環境は整っており、直接運営に反映させる様にしている。	「職員の名前がわからない」との家族の意見を受け、職員は名札をつけるようになったとのことである。また、「新人さんが入ったら教えてほしい。」という意見に対し、便りに紹介記事を書いたりする等、利用者や家族の要望や意見に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を開き、職員が何でも意見が言える雰囲気である。また随時、職員同士で話し合う機会を設け反映してくれている。それぞれ利用者様に担当の職員を儲け、目が行き届かない所の掃除ケアをしている。そして、担当者からの意見も出してもらう。	日頃からホームの運営や設備の充実に関して意見が提案されており、ホームの運営に反映されている。一例を挙げれば、階段付近のアコーディオン式扉も、職員の提案を受け、直ちに設置されたとのことである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員等にも、賞与や交付金があり、また労働条件が良く高齢の職員も活躍できる職場である。職員の定着率も非常に良い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員がそれぞれのレベルに合った研修を受けられるようにし、研修を終えた職員はレポートを書き職員会議等全員が集まる機会に発表の場を設けている。又、事務所には資料を含めレポートを閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は会社の上司、ホーム長、ユニット長が参加して、職員に報告している。今後は職員も積極的に参加するようにしていきたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安が多い入居初期には特に力を入れ、職員全員で利用者様の言葉に耳を傾け、聞く体制をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居初期は特に不安だと思いますので、家族等が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け信頼関係を築いている。体験入所も設けご本人の不安を少しでも取り除いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの長所なども説明させて頂き、本人、家族の事を第一に考えるように努めている。希望があれば他のサービス事業所と連絡をとったり、紹介させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様も家族のように共に支え合い、尊重し生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も何でも言い合える関係を作っています。些細の事でも、電話や面会時に話し合い利用者様が快適に暮らせるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	移転前に訪問してくださっていた鷺山のボランティアの方々が月に1度は訪問に来て下さっている。又、社協支部主催の生き生きサロンへの参加もしており、毎回出席することにより顔なじみが増え、喜んで頂いている。	面会が途切れがちな家族や知人の方々に対し、電話やメールを活用して、利用者の現状を伝えと共に、来訪を促す等、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不平、不満ストレスが溜まらない様に不定期に利用者様会議で、語り合う場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も連絡を取ったり、相談に乗り、本人や家族の事をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の希望、意向に添った生活が出来るよう心がけている。脳梗塞を起こしリハビリ不可、行き場がなく身寄りのない為ホームとしてのケア限界はあるが、ご本人の要望もあり退院後もホームで生活している。	コミュニケーションができる利用者を中心に利用者会議を開いている。会議を行うことにより、他の利用者について理解を深めることにつながり、更には、利用者同士の関係を和やかなものにし、利用者の意向把握にもつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、本人ないし家族に聞き取りをしている。職員全員が利用者様の生活歴を把握して、その人らしく生活できるように心がけている。全員が個人ファイル等の閲覧等により、利用者様の生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験を生かせる場面を提供し、その人らしい暮らしが出来る様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等とは電話や面会時に話をし、職員間ではその都度、また月一回の会議で介護方針を見直している。	介護計画については、利用者、家族の意向を踏まえ、利用者を良く理解している訪問看護師から意見を聞いたり、往診時に、主治医の意見を聞く等して会議を開き、カンファレンスを行い、介護計画の作成にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌へのそのつどの記入や、申し送りノートを作り、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時に家族に代わって、通院や買い物や夕食等の外出のサービスを希望時に行っている。地域の敬老会、誕生日会は希望に応え外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員、警察、消防等とは連絡を取り、安全で豊かな暮らしができるように支援している。特に消防署とは昔から密な関係であり緊急時の対応をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在も本人の希望される病院から往診に来て頂いています。24時間訪問看護とも連携しており、医療面でも大変安心できる。月2回の往診でその都度先生が変わり不便さは感じるが緊急時には即対応して下さり心強い。	かかりつけ医に、毎月、全員の健康状態について情報提供を行い、必要に応じて助言をいただいている。提携医院や訪問看護ステーションも近くにあることで、いつでも医療が受けられる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の看護師による週に一度の訪問看護や往診があり、気楽に相談できる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した利用者様には週一度以上は訪問し状態を把握している。家族の支援が困難な利用者様には家族に代わって洗濯等の必要な援助も行っている。普段より病院の相談員とは連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に家族と医療チーム、職員が話し合い、思いを共有している。我がホームでも何度かターミナルケアを経験し、知識を持った職員も多い。	提携医はターミナルケアについて経験が豊富であり、ターミナルケアの様々な場面について助言を受けることができる。また看取りの指針が明確になっており、早い段階から、ターミナル期に至るまで本人や家族、医師を含めた話し合いを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が年一回以上の心肺蘇生法の講習を行い、随時、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。通報、消火、避難訓練を毎回経験し、誰もが日頃から慌てずに対応出来るようにしている。(夜間想定)の訓練年一回実施。	避難訓練では、実際に通報、避難、誘導を行い、訓練後に消防署の指導、助言を得ている。利用者の心身の状況が救助に来てくれた外部者にもわかるようにするため表示方法を検討している。階段踊り場に担架を設置する等、防災体制を整えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、一人ひとりの人格を尊重するように心がけ、人生の先輩として言葉遣い等も気を付けております。	利用者一人ひとりの理解を深め、その人の状況に合った対応を心がけている。耳の遠い人には耳元に近づき、コミュニケーションの困難な人にはゆっくり語りかけたり、利用者の出身地の方言を使う等してコミュニケーションに心がけ、利用者の尊厳を損ねないように留意したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様には自由に思いを言っている。職員が決めるのではなく、利用者様の希望を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にし、居室やフロアと各々自由に過ごして頂いてる。希望の利用者様は職員の付き添いのもと、近くの喫茶店に行くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	アクセサリーやメイク道具など不要となったものを持ち寄りおしゃれに興味を持って頂くように支援している。スタッフの着れなくなった衣類を好みであれば差し上げ、おしゃれをして1日を楽しくして頂く様導く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立の利用者様が多く、毎日、食事の準備や片付けを手伝って頂ける。利用者様のADLの低下もあまり無く、グループホームの素晴らしさを感じている。ホットプレート料理、おいなりさん、おはぎ作りが好きで利用者様同士和やかに料理の時間を楽しんで頂いている。	ケチャップでハートが描かれたオムレツ、マカロニサラダ、大きな緑の葉の上に置かれたキャベツの千切りやトマトの刻んだものやトウモロコシが入っているお吸い物等、見た目にも鮮やかで食欲をそるよう工夫して食事を提供している。利用者が和気あいあいと食事を楽しんでおられる様子が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士不在の為、完全ではないが、医師と相談しながらその方のその日の状態に合わせて食べる量や栄養バランスを考え提供している。食事量や水分量を記録して職員全員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を全職員が理解しており、洗浄時間や洗浄法等一人ひとりに合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを観察し、その方に合わせて声掛け、介助、見守りを行っています。さりげなく介助し、事故や不安のないよう心がけている。	さりげなく、目立たないように、しかし、一人ひとりの状況に合わせて、トイレ誘導を行っている。また、日々の利用者の行動を観察し、排泄パターンを把握して状況に応じたパットを使用できるよう、努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人、一日の水分補給をしっかり摂れるようにチェック表を用いながら心掛けている。食物繊維の多い食品を使用して調理したり、ラジオ体操、レクリエーション、散歩等の運動を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の入浴順番、湯かげん、入浴する時間に配慮している。	利用者の希望も取り入れながら、入浴の順番や入浴の予定等を決めている。また季節に合わせて、しょうぶ湯やゆず湯を実施する等、入浴を楽しんでいただけるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩後や入浴後等に自由に休憩して頂いています。就寝時間も特に決めず自由に床について頂いている。不眠を訴える方については、暖かい飲み物を提供したり、話を聞く時間を設けたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週の訪問看護や往診により、医療と連携しながらその方の症状に合わせて調査している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験が活かせる場所を提供し、日々話し合いながらその人らしい暮らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に出来るだけ外出、行きたい所に連れて頂く様に面会時や電話で本人に代わって支援している。	利用者に電話の使い方について助言し、自由に家族に電話をかけていただいている。その折、利用者の外出希望について伝え、協力をお願いしている。普段から近くの商店やスーパー等へ外出しており、また春には遠足、秋には紅葉狩りに出かけたりしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知の軽い方であれば、おこづかい帳により所持金をチェックするのみで自身でお金を使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話をかけて頂いている。手紙に関しては、字が書けない方は、職員が支援して手紙等を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな住宅街なので不快な音や光も無く穏やかに過ごされている レクリエーションでは、季節に合った工作を行い、展示している。	廊下は車いすですれ違いができる広さがあり、トイレも車いす使用の方を介助するのに十分な広さがある。リビングの窓は大きく、採光に優れ、たっぷりと日差しが差し込んでいる。皆で作ったお雛様や折り紙の作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごせる居間を提供し、居室では、時に気の合った方との会話を楽しめたりと自由に生活して頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には仏壇や遺影も置かれている利用者様も見える 入所時には本人が希望される馴染みの持ち物を飾って頂けよう声を掛けている。	馴染みの筆筒を持ち込んだり、家族の写真を飾ったり、壁に装飾を施したりする等、それぞれに個性ある居室となっている。筆筒には中に入っているものが大きな文字で表示され、自分で衣類を選択できるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がすべて行ってしまうのではなく、そばに付き添って声掛けを行い、本人の力を引き出すようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100277		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハート六条(2番館)		
所在地	岐阜県岐阜市六条江東3丁目1番26号		
自己評価作成日	平成29年1月27日	評価結果市町村受理日	平成29年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&ll_gyosyoCd=2190100277-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成29年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人に感謝、日々に感謝、地域に感謝」を理念に掲げ、管理者や職員は介護の仕事をして頂いている喜び、感謝をとて感じている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お散歩の際に近所の方と挨拶を交わしたり、近くの喫茶店等は顔なじみの関係になっている。又、近所の方やデイサービスの方を招いての会を催したり、生き生きサロンへの参加や町内の清掃活動や行事等参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年の行事の一貫として近隣の高校との夏の行事「流しそうめん・ゲーム大会」を催している。又、中学校のボランティアの依頼があったが、交流を一度とならず次にも繋げることができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね二ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。自治会役員、民生委員等の代表者や地域包括支援センター、市担当者とサービス向上に向けて情報や意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村共に積極的に報告、相談をしている。運営委員会を利用し市役所、包括支援センターに疑問・問題が上がると相談している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについてのマニュアルを整備し、外部研修、職場内研修を通して全職員が拘束のない支援の実践に努めている。施設の構造上、やむなく玄関の施錠をしている。また身体拘束の必要性が生じた場合は、市や家族へ知らせ、説明し同意を頂いている。利用者様の状態が重度化になり、やむなく危険を伴う場合に、ベッセンサーマットの使用を家族に相談し使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の虐待は一切無い。更に今後も今までのように防止に努めていきたい。職員会議で言葉遣い、対応の仕方等を話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用される利用者様はいませんが、今後は活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書と口頭にて十分説明をし、トラブルの無いように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にポスターや苦情受付ポストを設置し、利用者や家族が意見、不満、苦情を言える環境は整っており、直接運営に反映させる様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を開き、職員が何でも意見が言える雰囲気である。また随時、職員同士で話し合う機会を設け反映してくれている。それぞれ利用者様に担当の職員を儲け、目が行き届かない所の掃除ケアをしている。そして、担当者からの意見も出してもらう。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員等にも、賞与や交付金があり、また労働条件が良く高齢の職員も活躍できる職場である。職員の定着率も非常に良い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員がそれぞれのレベルに合った研修を受けられるようにし、研修を終えた職員はレポートを書き職員会議等全員が集まる機会に発表の場を設けている。又、事務所には資料を含めレポートを閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は会社の上司、ホーム長、ユニット長が参加して、職員に報告している。今後は職員も積極的に参加するようにしていきたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安が多い入居初期には特に力を入れ、職員全員で利用者様の言葉に耳を傾け、聞く体制をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居初期は特に不安だと思いますので、家族等が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け信頼関係を築いている。体験入所も設けご本人の不安を少しでも取り除いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの長所なども説明させて頂き、本人、家族の事を第一に考えるように努めている。希望があれば他のサービス事業所と連絡をとったり、紹介させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様も家族のように共に支え合い、尊重し生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も何でも言い合える関係を作っています。些細の事でも、電話や面会時に話し合い利用者様が快適に暮らせるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	移転前に訪問してくださっていた鷺山のボランティアの方々が月に1度は訪問に来て下さっている。又、社協支部主催の生き生きサロンへの参加もしており、毎回出席することにより顔なじみが増え、喜んで頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不平、不満ストレスが溜まらない様に不定期に利用者様会議で、語り合う場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も連絡を取ったり、相談に乗り、本人や家族の事をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の希望、意向に添った生活が出来るよう心がけている。脳梗塞を起こしリハビリ不可、行き場がなく身寄りのない為ホームとしてのケア限界はあるが、ご本人の要望もあり退院後もホームで生活している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、本人ないし家族に聞き取りをしている。職員全員が利用者様の生活歴を把握して、その人らしく生活できるように心がけている。全員が個人ファイル等の閲覧等により、利用者様の生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験を生かせる場面を提供し、その人らしい暮らしが出来る様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等とは電話や面会時に話をし、職員間ではその都度、また月一回の会議で介護方針を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌へのそのつどの記入や、申し送りノートを作り、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時に家族に代わって、通院や買い物や外食等の外出のサービスを希望時に行っている。地域の敬老会、誕生日会は希望に応え外出支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員、警察、消防等とは連絡を取り、安全で豊かな暮らしができるように支援している。特に消防署とは昔から密な関係であり緊急時の対応をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在も本人の希望される病院から往診に来て頂いています。24時間訪問看護とも連携しており、医療面でも大変安心できる。月2回の往診でその都度先生が変わり不便さは感じるが緊急時には即対応して下さり心強い。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の看護師による週に一度の訪問看護や往診があり、気楽に相談できる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した利用者様には週一度以上は訪問し状態を把握している。家族の支援が困難な利用者様には家族に代わって洗濯等の必要な援助も行っている。普段より病院の相談員とは連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に家族と医療チーム、職員が話し合い、思いを共有している。我がホームでも何度かターミナルケアを経験し、知識を持った職員も多い。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が年一回以上の心肺蘇生法の講習を行い、随時、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。通報、消火、避難訓練を毎回経験し、誰もが日頃から慌てずに対応出来るようにしている。(夜間想定)の訓練年一回実施。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、一人ひとりの人格を尊重するように心がけ、人生の先輩として言葉遣い等も気をつけております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様には自由に思いを言っている。職員が決めるのではなく、利用者様の希望を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にし、居室やフロアと各々自由に過ごして頂いてる。希望の利用者様は職員の付き添いのもと、近くの喫茶店に行くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	アクセサリーやメイク道具など不要となったものを持ち寄りおしゃれに興味を持って頂くように支援している。スタッフの着れなくなった衣類を好みであれば差し上げ、おしゃれをして1日を楽しくして頂く様導く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立の利用者様が多く、毎日、食事の準備や片付けを手伝って頂ける。利用者様のADLの低下もあまり無く、グループホームの素晴らしさを感じている。ホットプレート料理、おいなりさん、おはぎ作りが好きで利用者様同士和やかに料理の時間を楽しんで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士不在の為、完全ではないが、医師と相談しながらその方のその日の状態に合わせて食べる量や栄養バランスを考え提供している。食事量や水分量を記録して職員全員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を全職員が理解しており、洗浄時間や洗浄法等一人ひとりに合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを観察し、その方に合わせて声掛け、介助、見守りを行っています。さりげなく介助し、事故や不安のないよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人、一日の水分補給をしっかり摂れるようにチェック表を用いながら心掛けている。食物繊維の多い食品を使用して調理したり、ラジオ体操、レクリエーション、散歩等の運動を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の入浴順番、湯かげん、入浴する時間に配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩後や入浴後等に自由に休憩して頂いています。就寝時間も特に決めず自由に床について頂いている。不眠を訴える方については、暖かい飲み物を提供したり、話を聞く時間を設けたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週の訪問看護や往診により、医療と連携しながらその方の症状に合わせて調合している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験が活かせる場所を提供し、日々話し合いながらその人らしい暮らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に出来るだけ外出、行きたい所に連れて頂く様に面会時や電話で本人に代わって支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知の軽い方であれば、おこづかい帳により所持金をチェックするのみで自身でお金を使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話をかけて頂いている。手紙に関しては、字が書けない方は、職員が支援して手紙等を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな住宅街なので不快な音や光も無く穏やかに過ごされている レクリエーションでは、季節に合った工作を行い、展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごせる居間を提供し、居室では、時に気の合った方との会話を楽しめたりと自由に生活して頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には仏壇や遺影も置かれている利用者様も見える 入所時には本人が希望される馴染みの持ち物を飾って頂けよう声を掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がすべて行ってしまうのではなく、そばに付き添って声掛けを行い、本人の力を引き出すようにしている。		